

杉山和一総検校

生誕四一〇年記念誌

杉山和一検校生誕四一〇年記念像建立委員会

※当サイトの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。
また、まとめサイト等への引用を厳禁いたします。

Unauthorized copying and replication of the contents of this site, text and images are strictly prohibited.

杉山和一総検校 生誕410年記念誌



杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会

目次

ご挨拶	2
杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会 実行委員長	倉塚 充夫
祝辞	3
公益財団法人 杉山検校遺徳顕彰会 理事長	吉田 勉
江島神社 宮司	相原 園彦
江島杉山神社 宮司	田部 裕子
藤沢市長	鈴木 恒夫
公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会 会長	伊藤 久夫
公益社団法人 日本鍼灸師会 会長	要 信義
一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長	伊勢山 竹雄
公益社団法人 東洋療法学校協会 会長	清水 尚道
筑波大学理療科教員養成施設 施設長	緒方 昭広
日本理療科教員連盟 会長	工藤 滋
社会福祉法人 桜雲会 理事長	一幡 良利
杉山検校遺徳顕彰会理事 東洋鍼灸専門学校校長	大浦宏勝 慈観
一般社団法人 健康美容鍼灸協会 会長	北川 毅
江の島振興連絡協議会 会長	湯浅 裕一
公益社団法人 日本あん摩マッサージ指圧師会 会長	安田 和正
公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長	清水 慎司
公益社団法人 東京都盲人福祉協会 代表理事	笹川 吉彦
歴史研究家	内海 恒雄
神奈川県議会議員	国松 誠
神奈川県議会議員	渡辺 均
神奈川県議会議員	市川 和広
神奈川県議会議員	松長 泰幸
藤沢市議会議員	塚本 昌紀
藤沢市議会議員	桜井 直人
藤沢市議会議員	吉田 あつき
藤沢市議会議員	松長 由美絵
杉山和一総検校生誕410年記念像寄附者御芳名	16
杉山検校と江の島 一般社団法人 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	西村 博志 18
杉山和一総検校略年表	34
編集後記	36



総検校像を通して 鍼灸を全国、世界に広げたい

杉山和一総検校生誕410年記念像建立委員会
実行委員長 倉塚充夫

「杉山和一総検校之像」建立に際しましては、多くの皆様のご寄付を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

毎年5月に杉山祭を執り行っている中で、多くの人に杉山和一総検校を広く知っていただけないものかと考えておりました。そこで、令和元年の杉山祭の折、皆様に像建立のお話をさせていただきました。この時には、令和2年の杉山祭にて除幕式を執り行う予定と考えておりました。

令和元年6月、記念像建立実行委員会を発足、公益財団法人杉山検校遺徳顕彰会、江島神社、一般社団法人藤沢市鍼灸・マッサージ師会を発起人として、皆様よりの寄付金の募集を開始いたしました。各所へのご寄付お願いのパンフレットの作製・配布、市や県への申請、銅像制作会社との打ち合わせなど行いました。

ところが、コロナ禍の影響で、令和2年4月に像が完成したにも関わらず非常事態宣言により搬入不可能となり、当初予定していた5月の杉山祭での除幕式が執り行えない状況になりました。その後、9月4日に像を建立、やっと江島神社への建立奉告祭、お清め祓いを行うことができました。その後、令和3年5月の杉山祭の前に除幕式を行い、多くの皆様にご披露することができました。

コロナという未曾有の災害の中、皆様の温かいお心によるご協力、ご支援により、無事像を建立することができました。心より感謝申し上げます。

この「杉山和一総検校之像」により、杉山和一総検校を知っていただくこと、藤沢市の観光に寄与すること、そして、鍼灸マッサージを多くの皆様の健康維持・増進にお役立ていただくための一助となることを、心より祈念いたしております。





杉山検校像建立によせて

公益財団法人 杉山検校遺徳顕彰会
理事長 吉田 勉

このたび、杉山検校生誕410年を迎えるにあたり検校ゆかりの地である江の島の江島神社境内に杉山検校像を無事建立することができ誠にありがとうございました。

また、検校像を建立するにあたりご尽力されました実行委員会の皆様方ならびにご支援を賜りました団体や多くの皆様方に対し厚く御礼申し上げます。

すでにご存じのことと思いますが、杉山検校は17歳の時、鍼按摩術を習得すべく江戸の芝愛宕下で開業している山瀬琢一の門をたたきましたが、なかなか技術を習得することができず22歳の時、師匠から見込みがないと破門されてしまいました。それでも検校は鍼の道をあきらめようとはせず故郷へ帰る途中、芸能の神様として崇められている江の島の弁天様に行きお願いすることとしました。そして、岩屋の中で断食祈願をすること21日間（7日間を3回）、ついに管鍼術という新しい刺鍼法の着想を得ることができました。

その後、管鍼術を大成した杉山検校は世界に先駆けて鍼按摩術を組織的に教える鍼治学問所を開設し普及に努めました。今や鍼灸医学は、日本はもとより世界にまで広がっていますが、その理由の一端として多くの治療家が治療穴に対し誰でもが容易に、細い鍼を痛みもなく正確に刺すことができる管鍼術を、すぐれた刺鍼法であると認め用いるようになったことにあると思います。

また、世界において日本の視覚障がい者の経済的自立率が高いと言われていますが、これも杉山検校が世界に先駆けて視覚障がい者を対象に教科書を用いて組織的に鍼按摩術を教える鍼治学問所を開設し教育したことによるといえます。そして、これら全ての出発点が江の島の弁天様の地であり、その弁天様を祭る江島神社境内に杉山検校像を建立することができたということの意義の大きさを感ぜざるを得ません。

今後も、杉山検校遺徳顕彰会は杉山検校の遺徳を顕彰するとともに、その遺志を継承し未来へ繋ぐ活動を行って行く所存です。



杉山検校生誕410年に寄せて

江島神社
宮司 相原 園彦

令和二年、杉山検校生誕410年の佳年を迎え、藤沢市鍼灸・マッサージ師会様を中心とした御関係各位の赤誠により、杉山流鍼術発祥の故地・当社御神域内「福石」のかたわらに杉山和一総検校像が建立されました事はご同慶に堪えません。翌年五月の杉山祭では記念像建立委員会様、杉山検校遺徳顕彰会様、藤沢市長様はじめ多くの方々のご臨席のもとめでたく除幕式を斎行致しました。

杉山検校による我が国固有の鍼灸療法の確立と視覚障がい者の自立を促す世界初の教育機関である鍼治講習所の開設が、その後の医療と社会福祉に多大なる功績を残した事はご承知の通りです。

平成二十二年の生誕400年の折には筑波技術大学において師の偉業継承を目的に、その史跡や顕彰碑の史的調査が行われておりますが、これらが全国各地に残っている事からも杉山検校という存在の大きさを知ることが出来ます。

この度竣功した記念像は、師の敬愛してやまなかつた江の島の地よりその遺徳を後世に啓発する新たなシンボルとして、更には当社弁財天信仰へのよすがとして広く親しまれる事でしょう。

結びにあたり斯道の興隆と藤沢市鍼灸・マッサージ会様益々のご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



ご 祝 辞

江島杉山神社

宮 司 田 部 裕 子

杉山和一検校生誕410年の佳節にあたり、藤沢市鍼灸・マッサージ師会様におかれましては、全国の皆様の御奉賛を賜り、江島神社御神域に杉山和一検校像を建立され、6月には晴天のもと目出度く除幕式を催されましたこと、誠におめでとございます。

この像の御姿の元になりましたのは、江の島の市杵島比売命と杉山和一検校を御祭神としてお祀りする江島杉山神社御本殿に安置されております、杉山和一大人命の鍼管と鍼を手にしたれた御座像でございます。

第13代徳川家定の幕府医官であった平塚検校が作成させたもので、明治時代に平塚検校から弟子の河人俊悦氏に譲られ、再び弟子の加藤国太郎氏、さらに弟子で当時杉山検校遺徳顕彰会副会長であった姥山薫氏に託されたもので、姥山氏により昭和27年(1952)、戦後の神社再建にあたり安置されました。手に持たれている鍼管と鍼で管鍼法の始まりと発展を表していると思われています。

この度このように鍼灸関係の皆様を中心とした方々のご尽力により、美しい海を望む御神域に御姿が建立となり、さぞ御祭神もお喜びのことと存じ上げます。

令和5年に、当社は元禄6年(1693)の創祀より330年を迎えます。東京都墨田区千歳(本所一ツ目)の地で尚一層の御神徳の発揚に努めるべくご奉仕してまいることをお誓い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

貴会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



杉山和一検校生誕410年記念誌発行に寄せて

藤沢市長 鈴木恒夫

このたびは、杉山和一検校生誕410年記念像の建立、誠におめでとございます。新型コロナウイルス感染症の影響により、お披露目の式典が一年遅れとはなりましたが、新緑の木々爽やかな江島神社で記念像の除幕式が行われ、多くの人に見ていただけるようになり、大変うれしく思っております。また、今日広く用いられている杉山流鍼術のきっかけが、江島弁財天への祈願にあったということに、改めて霊地としての江の島の不思議な魅力を感じております。

杉山検校が江の島参詣の道しるべのために建てた「江の島弁財天道標」は11基が市指定の重要文化財となっており、広重や北斎など、藤沢宿を描いた浮世絵には、この道標や、それを頼りに江の島へと向かう、視覚障がい者の方々が描かれているものがいくつもあります。

また、幕府の命により鍼灸やあん摩を教える鍼治講習所を設立しましたが、これは世界初の視覚障がい者のための職業訓練施設ということでもあります。このような先見性ある偉大な功績を、杉山検校記念像が、ゆかりの地江の島で、多くの人々に伝え、長く歴史に刻まれることを祈念いたします。

最後になりますが、杉山和一検校生誕410年記念像建立にあたり、ご尽力くださった記念像建立委員会の皆様をはじめ、地元の皆様方、多くの関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、記念誌が発刊されますことを心よりお喜び申し上げます。



杉山和一検校生誕410年記念に寄せて

公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会
会長 伊藤久夫

杉山和一検校生誕410年記念誌発刊にあたり、公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会を代表して心からお祝いを申し上げます。

日本で鍼を管に通して打つ管鍼法は、杉山和一検校が「石につまづき倒れたときに手にひろった松葉の入った管から管鍼法を創始した。」と伝えられています。また、世界初の視覚障害者教育施設「杉山流鍼治導引稽古所」を開設し、多くの鍼師・按摩師を誕生させたことから江戸時代に視覚障害者の職業として鍼・按摩が定着し、明治に盲学校設立後、職業教育として鍼・按摩が取り入れられました。今現在まで鍼灸マッサージが脈々と継承されているのは、杉山和一検校のたゆまぬ努力の賜物であると思料いたします。

さて、400年の時を経て、今杉山和一検校から「将来の鍼灸マッサージ師の進むべき道」と問われたら、皆様はどの様に答えるでしょうか。私は「過去を尊重し、現在を評価して未来へ繋ぐ改革」と答えたいです。そのため全鍼師会は、職能団体として良質な医療サービス提供を基礎として、現状に甘んずることなく安心して安全な施術を提供するために法律や制度の改正を成し遂げなければなりません。今後も全鍼師会は一致団結して国民のため・会員のため、引いては鍼灸マッサージ業界のために業務を遂行してまいります。

結びに、杉山和一検校生誕410年記念誌発刊にあたり、ご尽力された倉塚充夫実行委員長はじめ関係各位皆様方のご健勝ご多幸を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



杉山和一検校生誕410年に思う事

公益社団法人 日本鍼灸師会
会長 要 信義

杉山和一検校生誕410年記念誌の発刊および、杉山和一検校記念像建立1周年記念おめでとうございます。

鍼灸は世界で注目される伝統医療の一翼を担う技法ですが、我々が当然のように恩恵に与っている、管鍼法は杉山和一検校が修業時代に、江ノ島の弁財天の祠に籠って断食修業の末閃いた世界に類を見ない日本独特の技法であり、患者に優しい刺鍼の技法だと思っています。

この後杉山和一は検校となり5代将軍綱吉の「鍼治振興令」をうけ杉山流鍼治導引稽古所を開設し、これにより日本の鍼灸は経穴に触れて鍼をする技法が発展したのだと思います。この鍼治導引稽古所は世界初の障がい者教育施設である点も日本が世界に誇れることではないでしょうか。

さて杉山和一検校の鍼に対する功績は非常に大きなものですが、この日本の伝統的な技術や杉山流三部書等を含む日本の伝統医学としての位置づけを国や世界に働き掛ける事が、後世の我々の責務ではないかと思えます。

今、世界保健機構（WHO）や世界標準化機構（IOS）内では中国、韓国等の国が自国の鍼灸や漢方等が国際標準となるべく主張しています。日本は日本東洋医学サミット会議が非常に不安定かつ少ない予算の中で、日本伝統医学を守るべく国際会議の場において厳しい戦いを強いられています。苦しい国際状況の中でも、杉山和一検校の残された大きな功績は我々が今後も大事に守って行くべき財産です。

今後もこの功績を忘れないために、江島杉山神社、江島神社のご隆盛を願うと共に、杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会の皆様方に感謝し、祝辞といたします。



杉山和一検校生誕410年記念誌によせて

一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会
会長 伊勢山 竹 雄

杉山和一検校生誕410年記念誌発刊を心よりご祝辞を申し上げます。

またこのため杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会の皆様、そしてご支援をいただいた団体や多数の関係各位の多大なる労に衷心感謝申し上げます。

さて（管鍼法）の発祥の地が神奈川県藤沢市の江ノ島で生まれたといわれています。この江の島神社に杉山和一検校の銅像が410年目に建立されたことは、我々鍼灸を業としているものとして大きな誇りです。

これからも広く後世に伝えていく事も大事です。終わりに、杉山和一検校像建立を祈念申し上げます。挨拶といたします。



祝 辞

公益社団法人 東洋療法学校協会
会長 清水 尚 道

杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会の皆様、昨年の記念像建立に続いて記念誌のご発行おめでとうございます。

杉山和一検校は、刺鍼法に革新をもたらし、現代の日本においても最もポピュラーな刺鍼法である「管鍼法」を考案され、「鍼治講習所」を創設して世界に先駆け視覚障害者の職業教育・地位向上に貢献されるなど、わが国のあはき業界の礎ともなる偉大な功績を残されました。

あはき業界では杉山検校の存在を知らない方は少ないと思われませんが、記念像が建立されたことによって、江島神社を参拝される一般の方々に杉山検校の偉業や江戸時代の検校や当道座、あはき教育について知っていただく機会が増えました。

また、このたび記念誌を発行されることで、江の島を訪れることができない方々にも、後世の方々にも、杉山和一検校の功績を広く、深く知っていただくことができますことは、たいへん喜ばしいことと存じます。

計画立案から像の制作、建立、募金、除幕式の開催、記念誌の作成まで進めてこられました杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会の皆様のご努力に深く敬意を表し、皆様のさらなるご発展とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「杉山和一検校生誕410年記念誌」 発行にあたり

筑波大学理療科教員養成施設
施設長 緒方昭広

このたび、貴会会長ならびに実行委員、本誌発行にあたり関係各位、すべての方々のご尽力に視覚障害教育、理療業に携わる者の一人として深い敬服と感謝を申し上げます。本誌発行は、日本ならびに海外にいる日本で学んだ鍼灸界、鍼灸教育界に携わる全ての方々に杉山和一への感謝と将来の鍼灸マッサージ業発展に対して、己の身を立っている「日本の鍼術」は、杉山和一の偉大なる功績によることを改めて思い認識するよい機会と考えます。

私自身は、盲学校で鍼灸を学び、鍼灸の研究、鍼灸の教育界に約40年ほど働かせていただきました。これもひとえに自分に「鍼灸マッサージ」という、ヒトの苦しみを和らげ、それを取り除いてあげることができる術を手にすることができたことによるものとの上ない有難さに感謝しかありません。

和一が江戸期に盲人史上果たした役割は、①そのころ主流であった打鍼・撚鍼よりも盲人に施術の容易な管鍼を大成したこと、②多くの盲人鍼医を養成し、幕府諸藩の奥医師をはじめ、盲人が鍼医として進出する道を開拓したこと、③第5代将軍綱吉に寵遇され、幕府権力の庇護下に盲人の座組織の確立を図ったことなどです。彼が開いた鍼治学問所では、あん摩3年、鍼3年計6年の到達度に応じた教育がされていたことは、教育界に生きてきたものとして驚愕するばかりです。

「理療」は、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの総称で学習指導要領に登場してきましたが、この教育と明治36年に始まった本施設の理療科教員養成施設による教員養成は、どれだけ多くの視覚障害者の「命」を支えてきたのか、現施設長として先達、諸先輩諸氏のすべての方々にお礼と感謝、医療業としての鍼灸マッサージの偉大なる力を鍼灸業界すべての方々と共に、益々深化発展させる努力を惜しまないでこれからも生きていきたいと思っております。



「杉山和一検校生誕410年記念誌」 発刊に寄せて

日本理療科教員連盟
会長 工藤 滋

この度の「杉山和一検校生誕410年記念誌」の発刊、誠にめでたうございます。視覚障害者の理療教育に携わる者を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

視覚障害当事者である杉山和一は、視覚障害者が容易に刺鍼できる管鍼術を考案し、鍼治講習所を全国に開設して、視覚障害者を対象とする理療教育に尽力し、日本において理療を視覚障害者の適職として確立させました。この鍼治講習所における視覚障害者に対する集団教育の実践は、その後の盲学校における理療教育のベースともなっており、杉山和一はまさに視覚障害者の理療業、理療教育の祖とも言えます。こうして現代まで受け継がれてきた理療業は、現在も重度視覚障害者の全就職件数に占める割合が半数近くに達しており、視覚障害者の職業自立を支える最も重要な職業となっております。しかも、考案された管鍼術は日本で最も多く用いられる刺鍼法となり、鍼治講習所における教育はそれまでの「見て刺す」法から「触れて刺す」という日本特有の鍼灸術の方法の発展につながっており、杉山和一は、視覚障害者のみならず、日本の理療に携わる者にとって欠くことのできない逸材であったと言えます。

こうした杉山和一の偉大な功績を称えて発刊された記念誌は、大変貴重で意義あるものと存じます。結びにこの記念誌の編集・発刊に携われました杉山検校遺徳顕彰会並びに関係者の皆様方のご尽力に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



杉山和一検校生誕410年記念誌に寄せて

社会福祉法人 桜雲会

理事長 一 幡 良 利

このたび、杉山和一検校生誕410年の記念事業の一環として、記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。記念事業を企画されました実行委員会の皆様には、改めまして深く敬意を表します。

公益財団法人杉山検校遺徳顕彰会と社会福祉法人桜雲会のつながりの中で、思い出に残っているものは「秘傳・杉山眞傳流」2004年発行の製作・販売協力をさせてもらったことです。九百ページに及ぶ管鍼術の極意を極めた復刻版で、鍼灸界の財宝となっています。

桜雲会は鍼灸関連の医学書の点字・墨字出版をはじめ、今年度130周年を迎えます。杉山和一検校関連書物では「世界に誇る江戸期の盲目の偉人—杉山和一と塙保己—」、「鍼医・杉山検校管鍼法誕生の謎」などの読み物も出版しました。これからも、杉山和一検校に関連した書物を世に出せるように企画しているところです。鍼灸界にとどまらずに一般の人、大学生や小中高生の方にまで、広く興味をもってもらえるものを出したいです。

今後とも杉山和一検校関連蔵書の企画や諸行事の際には、お手伝いさせていただければ幸甚に存じあげます。

結びに、貴会の益々の充実・発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



江ノ島新名所となった 杉山和一検校の銅像建立を祝す

杉山検校遺徳顕彰会理事
東洋鍼灸専門学校校長

大浦宏勝 慈観

杉山和一検校生誕410年を記念して、江ノ島の福石脇に検校の銅像が建立された。この像のモデルとなったのは、両国の江島杉山神社に祀られている検校の彩色木座像である。この木座像の由来について説明してみよう。

この木座像は、江戸末期に惣検校だった平塚東栄一から弟子の河人俊悦に譲られ、再びその弟子の加藤国太郎へ、更にその弟子で元杉山検校遺徳顕彰会副会長であった姥山薫氏に託されたものである。昭和20年の東京大空襲により、杉山神社とともに焼失した杉山検校の御神像に替わって、昭和27年に再建された江島杉山神社に姥山氏により奉納された。

平塚検校は、寛政9年（1797年）に父和田彦右衛門の子として生まれた。検校となった時に、本国が相模国鎌倉郡腰越村であったことから、平塚姓を名乗ったと言われる。そして元治元年（1864年）、惣検校から奥医師となった。ゆえに江ノ島とはゆかりのある人物である。

幕末から明治維新の動乱期、関東大震災から東京大空襲を越え、縁ある鍼医の手によって守られた木座像は、今、江ノ島の地に再現された。言うまでもなく江ノ島は、一盲人にすぎなかった杉山和一を、管鍼法の開祖、日本鍼灸の代表的人物へと生まれ変わらせた神域である。両国と江ノ島をつなぎ、杉山和一検校の業績はこの銅像建立を契機に、永遠に顕彰されつづけるであろう。

発起人であり事務局として銅像建立を主導した、藤沢市鍼灸・マッサージ師会の皆様の努力に敬意を表したい。



日本が世界に誇る杉山和一

一般社団法人 健康美容鍼灸協会
会長 北川 毅

2010年頃より、海外で鍼灸の臨床と教育活動に携わる機会が増え、その業務経験を通じて、私は、「日本鍼灸」ということを強く意識するようになりました。私が外国人から最も多く尋ねられる質問は、「日本の鍼灸と中国の針灸の違いは何か?」ということです。同時に、外国人の専門家の多くが、「針が細い」「鍼管を使って針を打つ」ということが日本の鍼灸の特徴であると認識しているようです。

針灸は、6世紀に中国から日本に伝来し、日本では独自の変容を遂げていきました。そして、その起点となったのが、17世紀の杉山和一による「鍼管」の創案と「管鍼法」の確立です。現在では、刺針法としての管鍼法は、日本国内のみならず、世界の刺針法の標準となりつつあり、例えば、アメリカではほぼ100%の鍼灸師が鍼管を用いて刺針しており、ヨーロッパにおいても急速な普及を遂げています。そして、そのために、杉山和一の名は、“The father of Japanese acupuncture”（日本の鍼の父）として、海外の専門家の間で尊敬の念を集めています。

このような世界的な現況から、私たち日本人鍼灸師には、日本由来の管鍼法や細い針がグローバル化している実情を知り、世界的視野で「日本鍼灸」を認識することが求められます。そして、「日本の鍼灸と中国の針灸の違いは何か?」という海外の専門家の疑問に対して、明確に答えていかなくてはなりません。そのためには、管鍼法と杉山和一について、一定の知識を身に付けておくことが必要となりますが、鍼灸師の養成施設で使用されている教科書の管鍼法と杉山和一に関する記載は、決して十分であるとは言えません。そこで、この度、「杉山和一校生誕410年記念誌」が刊行されたことの意義は極めて大きく、私たちは、鍼管の祖 杉山和一を、あらためて世界に対して誇るべきであろうと考えます。



ご 祝 辞

江の島振興連絡協議会
会長 湯 浅 裕 一

このたびは、杉山和一記念像建立と生誕410年記念誌発行、心からお祝い申し上げます。

そしてまた、さる5月9日江の島での記念像除幕式にお招きをいただきましてありがとうございます。この日の式典の開催にむけてご尽力いただいた倉塚実行委員長を始め、多くの実行委員の方々に深く敬意を表します。

さて、杉山検校と江の島の繋がりは皆様もよくご存じのように古く、江戸時代に遡ります。20歳の時、岩屋洞窟に籠もり、弁財天のお告げを受け、鍼術を開眼しました。そして將軍家と深い繋がりを続け、検校となり、五代將軍綱吉の時、専属の鍼医となり大出世を遂げました。

またその間將軍家は、初代の家康から代々江の島へ弁財天詣を熱心に続けました。そして、江戸中期になりますと、その弁財天詣が一般庶民の間まで広がり、数多くの浮世絵にも描かれていますように、弁財天信仰が絶頂期を迎えました。江戸庶民から見て、富士山が眺められ風光明媚で、魚介類の食べ物も美味しく、また貝細工、あわびの粕漬、はばのりなどの、みやげが豊富な江の島へ旅することがあこがれだったようです。このような弁財天参りを兼ねた江の島への旅が長年流行り続け、観光地江の島の誕生の礎となったわけであります。

そして現在も、江戸時代以上に一年中賑わいを見せている江の島ですが、杉山検校のお墓があり、毎年5月に杉山祭が開催されていることを、ご存知の方はそんなに多くいらっしゃいません。

記念像建立を契機に、これからはもっともっと多くの方々に杉山検校との関係を理解いただき、歴史と観光の島、江の島の新しい魅力のひとつとして認知されるようになることを願っていますし、期待しているところです。

最後に、これからも藤沢市鍼灸・マッサージ師会の活動事業がますます発展されることを祈念しまして私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。



杉山和一検校の遺徳に想う

公益社団法人 日本あん摩マッサージ指圧師会
会長 安田 和正

この度「杉山和一検校生誕410周年記念誌」発行に関しましてご寄稿のご依頼を頂きましたことに対しまして深く感謝申し上げます。

私の現在の心境を思いのままに書いてみました。

先日、私が購読いたしております某新聞に、久しぶりに嬉しさがこみあげてきた記事が掲載されておりました。タイトルが「苦しむ人」を鍼灸で助けたい。18歳の女性の方です。この方は、中学生時代から心因性の症状に悩まされ病院を転々とされましたが功なく現在に至った方ですが、ご自分で調べていくうちに、ストレス性や心因性の病には鍼灸が有効ではないかと考え、鍼灸師になって、私と同じ病で苦しんでいる人達を助けたいとの思いを語った記事でした。実のところ私は、十数年前に近くの精神病院から同症状の患者さんの診察依頼を受け、その後毎年数名の患者さんの紹介を受けております。鍼灸術のすばらしさ、東洋医学の魅力を実感いたしております。

因みに、私が卒業した盲学校。鍼灸を学んだ学校の何れも視覚障害者の方が創設され100年以上の歴史ある学校です。

時代が移り、社会情勢が変化している現代ではありますが、最近では、ヨーロッパを中心に鍼術に関心がたかまっています。我が国においてより精度の高い鍼術をもって国民の保健衛生に寄与しなければなりません。

杉山和一検校が残された多大な遺徳を、現代の鍼師はしっかりとしっかりと継承していかなければなりません。



杉山検校翁に奉げて

公益社団法人 神奈川県鍼灸師会
会長 清水 慎司

まずは藤沢市鍼灸・マッサージ師会の会長をはじめ関係者の皆様には、杉山和一翁記念像建立に際しまして、多大な尽力をしていただき無事建立できましたことに、感謝を申し上げます。杉山検校翁没後3百有余年が経つ今日、感慨深く感じています。

私たち鍼灸業は、多くの人の苦痛や病の症状を緩解し身体に活力を増加させ健康に大きな効果を有し社会に貢献していますが、法的な制度の遅れや県民の社会的認知も思うように向上しておりません、そしてそのために業界の組織率が低く影響力の低下となっていると感じます。

そこで鍼灸マッサージ業界で一致団結をして、県民に対し、理解と普及の向上に取り組み、行政やマスコミ、更に政治関係者への働き掛けの推進を強く進めて行く必要を感じています。受療率が上がれば県民の健康に寄与し健康社会の拡大につながります。今回の杉山和一翁記念像建立が契機になれば幸いです。

倉塚会長をはじめ関係者の方々がご壮健でいられ活躍されること、そして業界の発展を心より祈念いたします。

ありがとうございました。



杉山検校の銅像落成を祝う

公益社団法人 東京都盲人福祉協会
代表理事 笹川吉彦

去る2021年5月9日、コロナウイルス騒動で延び延びになっていた検校の銅像除幕式が無事開催されました。当日は関係者多数が参列され、念願であった杉山検校銅像の除幕を祝いました。長年に亘る関係者の皆様の多大なご尽力に対し深甚なる感謝の意と敬意を表します。

私は16歳で失明し福岡盲学校で三療の免許を取得し、1958年に上京して三療の技術を高めたと思いましたが就職できず、出張専業で開業する傍ら健常者とのギャップを少しでも縮めることができればと、福祉活動に参加しました。

その中で、元杉山検校遺徳顕彰会の会長、故加瀬氏と交わり、墨田区の杉山神社や江ノ島の杉山検校の墓地をお参りし、検校の遺徳を肌で感ずる機会を得ることができました。

これを期に検校が苦難の中で開発された管鍼が今以上に世界に広がり、人類の幸せをもたらしてくれることを願って止みません。銅像落成を心からお喜び申し上げます。



杉山和一検校と江ノ島

歴史研究家 内海恒雄

杉山和一検校は、幼少のころ失明したが、鍼の修行の中で、管鍼の秘術を授かり、將軍徳川綱吉の病気を治して侍医となり、目の不自由な人々が鍼灸で生計を立てることを社会的に認めさせた。天和2年(1681)に、世界に先駆けて「鍼治講習所」を設け、目が不自由な人に生活の道を開いた。こうして現代医学にも通じる鍼灸による治療が広く行われることになった。

私は『江ノ電浴線新聞』の「杉山検校と(江ノ島)弁財天」などで、杉山検校は鍼術が上達せず、江ノ島弁財天(神社)に参籠して断食までして祈ったため、満願の日に江ノ島神社(辺津宮)参道脇の「福石(臥牛石)」につまずいて倒れたが、鍼と管を授かって、やがて管鍼の秘術を編み出したという伝説などを紹介した。杉山検校は江ノ島弁財天への信仰が篤く、下の宮(辺津宮)の社殿を改修し、護摩堂や三重塔とか將軍綱吉から拝領した琵琶や琴などを寄進した。また藤沢宿から江ノ島までの「江ノ島道」の道標を48基も建て、11基が現存し、以降目の不自由な人などの江ノ島詣りも増えた。

「福石」前の脇道を下ると、西浦霊苑の中に「杉山検校の墓」があるが、従来杉山検校は江戸本所の弥勒寺に葬られ、江ノ島には分骨でもあるのだらうと言われていた。しかし大正12年に江ノ島の墓所を修復するため、墓石を動かすと、首をうなだれて座っている人骨が出土し、墓石に杉山検校の戒名などが刻まれており、同年の関東大震災で弥勒寺の検校の墓が壊れ、墓石の下には位牌のような木片があっただけで、江ノ島の方が杉山検校の墓だった。

この度藤沢市鍼灸・マッサージ師会が中心になって、「福石」のそばに「杉山和一検校の記念像」が建てられ、より理解しやすくなったので、ぜひ多くの人に訪れていただきたいものである。



杉山和一検校生誕410年記念誌発行に寄せて

神奈川県議会議員 国 松 誠

今は世界中が、パンデミックの真ただ中にあります。そして世界中が対応に苦慮し、世界中でそのやり方が違います。どれが最善の策なのか終わってみなければわかりません。為政者は、より良い方法を選択したつもりでも全てを救うことが、不可能であるということをお伝えします。

今行動すべきことは、批判ではなく人々との連帯、絆、であります。貴会がこの時期に杉山和一検校の像を建立されたことは、何か因縁めいたものを感じざるを得ません。即ちこの像の建立は鍼灸・マッサージ師会のメンバーの絆はもとより多くの人々の絆を求め、平和を求める象徴とも言えます。杉山和一検校像が関係者のみならず江の島を訪れる多くの人に来訪していただきその心のよりどころとなることを祈念するものであります。

貴会の発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。



杉山和一検校の業績に学ぶ！

神奈川県議会議員 渡 辺 均

記念誌の発行、おめでとうございます。また改めて、杉山和一検校生誕410年記念像の建立、おめでとうございます。併せて、建立並び記念誌の発行にご尽力されました貴会並びに関係各位の皆様へ感謝申し上げます。

杉山和一検校が、鍼の施術法の一つである「管鍼法」を創始し、その着想を江の島の地で得ました。併せて、世界初の視覚障害者教育施設として「杉山流鍼治療導引稽古所」を開設し、盲人の職業として鍼・按摩を定着させた事が、後の盲学校設立後の職業訓練教育に繋がった事は、特筆すべき業績です。そして、杉山和一検校の業績や生涯には、我々議員などが学ばなければならない点が多くあります。

記念像の建立により、「福石」と「道標」と併せて、杉山和一検校の業績が分かりやすくなり、多くの方々に知って頂け、後世に引き継がれる事と思えます。

結びに、引き続きコロナ禍の中ではありますが、貴会並びに会員各位の皆様へ益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。



杉山和一検校生誕410年を祝う

神奈川県議会議員 市川 和 広

杉山和一検校が生きた江戸の時代にも、風邪やはしかがはやっていたと書物等で読んだことがあります。新型コロナウイルスが猛威を振るう2021年の今、泉下の杉山和一検校は何を想っているのでしょうか。

今まさに、杉山和一検校の編み出した管鍼法を受け継ぎ、コロナ禍の中で、健康に不安を抱えている方々、不要不急の外出自粛などで、家に引きこもり体調を崩されている方々のために、日々ご尽力いただいている鍼灸マッサージ施術所の従事者の皆様には深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大により、神奈川県においても新規感染者が爆発的に増加しています。こうした中、鍼灸マッサージに関係する皆様からワクチン接種を早期に受けられるようにとの要望があり、私たちも日常生活を送るために欠かせない仕事を担っている皆様が、早期に接種できるよう県当局と議論してきたところであります。

結果、福祉施設等従事者向け新型コロナワクチン接種会場（新横浜）において、鍼灸マッサージ施術所の従事者の皆様も接種を受けることが可能でありますので、ご活用いただければと思います。

私は、新型コロナウイルスの感染が収束しない中、この原稿を書くにあたり、多くの方々の心と体を元気にしてこられた杉山和一検校が今伝えたいことは、人々にしっかりと寄り添い、それぞれが自分の役割と責任を果たしていくことの大切さではないかと考えます。改めて、私自身、努力を重ね、政策を磨いてまいりたいと思います。

杉山和一検校生誕410年記念像の建立、記念誌の発行、誠におめでとうございます。



杉山和一検校生誕410年記念に寄せて

神奈川県議会議員 松 長 泰 幸

この度は、杉山和一検校翁・生誕410年記念像のご建立に際し、心よりお祝い申し上げます。多くの会員の先生方の想いや志のもと、完成されたわけではありますが、記念像建立委員会のご努力にも厚く敬意を表すところです。また、建立の場所が杉山和一検校翁にとって管鍼術を思いつくことになったゆかりの地である江の島神社敷地内になったことは、大変に喜ばしいことと存じます。これにより、多くの観光客の目にも触れるようになり、その存在や功績は、後世に確実に残ること存じます。

さて、昨年来の未だ収束の見えないコロナ禍に不安を感じる人々も多いと感じます。会員の先生方におかれましては、治療や施術に際し感染対策等様々なご苦勞があったことと存じます。

しかし、コロナ禍を収束させていくには、やはり西洋医学だけではなかなか目に見えないウイルスを相手にするのは難しいということが分かってきたのではないかと考えます。今こそ、鍼灸や漢方を始めとする東洋医学の出番ではないでしょうか。もしくは、西洋医学と東洋医学が融合し、人々の免疫力を高め、例えPCR検査で陽性判定されようと重症化させないことが重要です。

そのためにも鍼灸・マッサージ師会の先生方には、日ごろからの県民に対する健康ケア等にご活躍して頂けると幸いですし、未病対策に様々お知恵を拝借できればと考えております。また、それを神奈川県政の政策に活かしていければと存じますので引き続きのご指導・ご鞭撻を切にお願いするところであります。

貴会の今後の益々のご発展と会員の先生方のご健康をご祈念申し上げお祝いのお言葉とさせていただきます。



ご 祝 辞

藤沢市議会議員 塚 本 昌 紀

杉山和一検校生誕410年記念誌の発刊、誠にありがとうございます。

「飲水思源(いんすいしげん)」とは、井戸水を飲む時その井戸を掘った人の労苦は忘れない…と言う意味で、私の好きな中国のことわざです。

言うまでもなく、奈良時代、中国より伝わり江戸時代に庶民にまで広がった鍼灸治療、中でも現在我が国の主流となっている鍼管法を江戸中期に創出し、今日にまで多くの人々の健康を支えて来た杉山和一検校の功績は、尽未来際称賛され続けるものと確信致します。

この度、その鍼管法を発見した原点の地江の島に杉山和一検校の銅像を建立された事は、飲水思源の原理に照らして、今後益々多くの人々が江の島に集い、先人を讃え称賛の輪が幾重にも広がり、ひいては鍼灸・マッサージ師会と本市の更なる発展に大きく寄与して行くものと思われまます。改めて杉山和一検校像建立に携わられた方々に称賛と感謝を申し上げます。

さて明年度は本市と藤沢市鍼灸・マッサージ師会の皆さんとの協働で実施されている改正高齢者いきいき交流事業がスタートする年であります。中でも、高齢者のADL（日常生活動作）の低下防止に効果のあるフレイル予防に、鍼灸・マッサージ師会の皆さんのノウハウが活かされ、市内高齢者がいきいきと過ごせる事業展開が図られるよう、顧問議員としてしっかり取り組ませて頂きます。

最後になりますが藤沢市鍼灸・マッサージ師会の皆さんの益々のご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。



杉山和一検校生誕410年記念像建立によせて

藤沢市議会議員 桜 井 直 人

杉山和一検校生誕410年記念像建立を心よりお祝い申し上げます。

私は市民の健康増進を一番の政策として市政に取り組んでおりますが、その中で藤沢市鍼灸・マッサージ師会の皆さまのお力は大変大きいものであり、貴会にとって待望の杉山検校像が建立されましたことで、皆さまの活動が、今後より充実されることを大いに期待をしております。

杉山和一検校の功績、藤沢市江の島との由縁について、ここで改めて詳細に触れませんが、師から破門され、失意の中たどり着いたこの江の島の地で、弁財天の啓示を得、検校の地位まで上り詰めたという事実に私はいつも勇気づけられます。

現代社会の厳しい競争の中で頑張っている人々、夢破れセカンドチャンスに向け頑張っている方たちにとって、大変希望の持てる素晴らしいエピソードであると思います。

私としては、こうした視点からも、杉山和一を多くの人に知っていただくきっかけを作ればと考えております。

いずれにせよこれを機に、江の島を訪れる観光客のみならず、多くの人々に管鍼術の祖、杉山和一検校の多大な功績をご理解いただけることを心より望んでいます。

今後、藤沢市鍼灸・マッサージ師会の皆様と、大いなる偉業を啓発するとともに、市民の健康増進に役立てていけるよう努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



ご 祝 辞

藤沢市議会議員 吉 田 あつき

杉山和一検校生誕410年、誠におめでとございます。生誕のお祝いを申し上げるとともに、合わせてこの度、記念誌が発刊されますこと心よりお慶び申し上げます。

また、一大プロジェクトでありました杉山和一検校生誕410年を記念する銅像も無事に建立され、除幕式が行われたこと大変嬉しく思います。新型コロナウイルスの影響によりお披露目が一年間遅れるなど、今日に至るまで大変多くの困難があったと推察致しますが、倉塚実行委員長をはじめ、ご関係の皆様のご努力があったからこそ記念像建立並びに記念誌の発刊に至ったのだと思います。改めてご尽力された全ての皆様に対しまして心より敬意を表する次第です。

今後、江の島や藤沢の発展に多大な貢献をされた杉山和一検校の銅像が多くの人々の目にとまり、その偉大な功績が広く後世に伝えられるとともに、郷土の歴史を振り返るきっかけになっていくことを祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



杉山和一検校生誕410周年 記念像建立を祝って

藤沢市議会議員 松 長 由美絵

杉山和一検校生誕410年記念像建立にあたり、心よりお祝い申し上げます。

記念像建立委員会の皆様をはじめ、関係する方々の多大なご尽力に、心より感謝と敬意を申し上げます。

杉山和一は、5代將軍徳川綱吉の支援を受けて、世界初の視覚障がい者教育施設とされる「杉山流鍼治導引稽古所」を開設し、また、盲人の芸能集団である「当道座」の再編にも力を注いだことから、視覚障がい者職業教育のパイオニアといわれています。障がい者が主体性を持って「自立」することは現代においても障害福祉の基盤となっています。

記念像の建立により、杉山和一検校を信奉する多くの方々が全国から訪れてくださることを願っております。しかし、記念像のある江の島は急坂や階段が多く、特に和一が修業したとされる岩屋洞窟は長く急な階段の先にあります。訪れることを望むすべての人に安心・安全な江の島観光を提供することは、江の島に生まれ育った私の大きな願いであり、今回の記念像の建立が今後大きな影響を及ぼしてくれると大変期待しておりますし、自ら積極的に働きかけて参りたいと存じます。

長引くコロナ禍の活動制限により、身体を動かすことや人との交流などといった従来の方法で健康を維持することが難しくなっています。その対策として、感染の流行や重症化を予防するワクチン接種が進むことが望まれますが、副反応などのリスクと感染予防などのベネフィットを天秤にかけ判断することが求められます。一方、鍼治療をはじめとした方法で自己免疫力を高めることにリスクはなく、ウィルスに負けない身体づくりには欠かすことが出来ません。ウィズコロナ・アフターコロナの時代にもっと注目されていくべきだと思います。自己免疫力を高めることにより、健康を維持していくことの重要性をもっと多くの方が認識されるよう願っております。

貴委員会と関係する皆様のますますのご健勝とご発展を心より祈念申し上げます。

杉山和一総検校生誕410年記念像

寄附者御芳名

この度は、杉山和一総検校生誕410年記念像建立にご賛同の上、ご寄付を賜り誠にありがとうございました。感謝の意を込めて、ここにご芳名を掲載させていただきます。

金参拾萬圓

江島神社様 (一社)神奈川県鍼灸マッサージ師会様 セイリン株式会社様

金貳拾萬圓

(公財)杉山検校遺徳顕彰会様

金壹拾萬圓

江島杉山神社様 (公社)全日本鍼灸マッサージ師会様 (公社)日本鍼灸師会様
(公社)神奈川県鍼灸師会様 (公社)東京都鍼灸師会様 (公社)京都府鍼灸マッサージ師会様
(一社)川崎市鍼灸マッサージ師会様 (一社)横浜市鍼灸マッサージ師会様 小田原鍼灸マッサージ師会様
鎌倉逗葉鍼灸マッサージ師会様 海老名市鍼灸マッサージ師会様 本郷鍼灸按摩マッサージ指圧師会様
(学)小倉学園新宿医療専門学校様 (一社)東洋はり医学会様 (公社)東京都盲人福祉協会様
株式会社山正様 株式会社カナケン様 日進医療器株式会社様
楽っ子堂はり灸治療室様 市川友理様 倉塚充夫様
笹川吉彦様 鹿濱秋信様

金八萬圓

町田浩児様

金七萬五仟圓

西村博志様 西村みゆき様

金六萬圓

工藤真様 徐英詞様 徐大兼様

金伍萬壹仟圓

足田泰三様

金伍萬圓

廣瀬 徹 様	柿田 千鶴 様	五百旗頭 力 様
千木良孝之 様	和田 恒彦 様	佐藤 博由 様
田中 秀 様	三村 幸子 様	宮本 俊和 様
和久田 哲司 様	上野 晃敬 様	上野 剛志 様
藤原 光平 様	濱田 良之助 様	大澤 輝子 様
五味 哲也 様	新島 豊子 様	松本 俊吾 様
吉田 勉 様	辻 将一 様	三鍋 太郎 様
徐 大真 様	加藤 宏 様	高橋 道明 様
往田 和章 様	左近 充誠 様	清水 克郎 様
太田 修二 様		

金参萬圓

こきぬ按マ指鍼灸院 様 櫻井 正 様

金貳萬圓

内海 恒雄 様

金壹萬圓

江の島振興連絡協議会 様	(学)鬼木医療学園国際鍼灸専門学校 様	かながわ信用金庫藤沢営業部 様
(一社)熊本県鍼灸マッサージ師会 様	しゃことんすはりきゅういん 様	株式会社ナガエ 様
林公認会計士事務所 様	平塚鍼灸マッサージ師会 様	株式会社前田豊吉商店 様
(学)森島学園 様	大和鍼灸マッサージ師会 様	有限会社ワーフ 様
石井 繁夫 様	伊藤 信二 様	井森 和男 様
榎本 恭子 様	小椋 喜一郎 様	小野寺 秀夫 様
川口 京子 様	金 革起 様	坂 卷 克己 様
佐藤 明子 様	沢田 昌子 様	志澤 規男 様
杉田 久雄 様	高橋 隆行 様	豊田 敏子 様
野本 秀幸 様	藤田 敬三 様	松田 晴男 様
松野 徹 様	安田 真由美 様	山梨 竜一 様
吉田 学 様	石川 様	

金伍仟圓

伊藤 洋 様	遠藤 誠 様	小柴 元 様
増田 薫 様	浅野 三男 様	守岡 隆子 様
米倉 貞敏 様	和田 孝司 様	

金壹仟圓

秋庭 隆 様

金参佰萬圓

(一社)藤沢市鍼灸・マッサージ師会 様

杉山検校と江ノ島

一般社団法人 藤沢市鍼灸・マッサージ師会
西村博志

1. 杉山和一検校の生涯(1610年~1694年)

江戸時代前期の鍼医杉山和一は、1610年（慶長15伊勢国・藤堂和泉守高虎の家臣杉山権右衛門重政の長男として伊勢の津で生まれる。幼名は養慶。幼少期に病により失明し家督を継げず、鍼で身を立てようと江戸の盲人鍼医・山瀬琢一の門弟となる

ごめんなさい
記念誌にのみ
掲載を許された
画像がございました。

が、物覚えが悪く不器用なため鍼術が上達せず破門されてしまう。失意のうちに訪れた江の島で、鍼が上達するよう断食修行を行った満願の日、精魂尽き果て倒れたところ、福石（臥牛石）に躓き、その時に木の葉に包まれた松葉が手に触れた。これぞ弁財天の啓示であると感謝し、日本独自の刺鍼技術である「管鍼法」の発想を得たとされる。その後、京都の入江豊明に師事し研鑽を深め管鍼法を完成させ、江戸に戻り開業（廻町といわれている）、名声が大いに上がり門前市をなしたと言われている。

1682年（天和2）（9月18日か？）第5代將軍徳川綱吉より命を受け、鍼術再興のため神田小川町に「鍼治講習所（鍼治学問所、鍼治導按稽古所ともいう）」を開設。この鍼治講習所が世界に先駆けて行われた視覚障害者の職業教育機関とされている。

鍼治講習所では、杉山流三部書を基に視覚障害者に鍼按摩療法が教育されていた。徒弟制が主流であった時代においては画期的な教育を実践しており、世界初の視覚障害者に対する職業教育施設とされる。この後に続く視覚障害者教育施設としては、1784年頃にフランス人のバラタン・アユイが、パリで盲学校を開設していることから、約100年先駆けて日本において視覚障害者の職業教育が行われていたことになる。

杉山検校が鍼・按摩を視覚障害者の職業として定着させ、自立の道を切り開いたことは、明治時代の盲学校設立後の職業教育課程に、鍼灸・按摩が取り入れられた経緯へと繋がっていく。また、日本のみならず世界においても視覚障害者が鍼灸手技療法を学ぶ原点となっており、その功績はわが国の世界に誇るべき文化的な遺産といえる。

杉山検校はその生涯において、月一度の江の

島詣を欠かさなかったと言われるほど信仰が篤く、下之宮（坊）への護摩堂・三重塔の建立や江の島道標の寄進を行うなど、江の島との関わりは深い。歌川広重の浮世絵「東海道五十三次 藤沢宿」には、検校を慕う盲人らの江の島詣の様子も描かれている。

杉山検校が存命の頃は、岩本院、上之坊、下之坊が本末争論をしていた時期とも重なる。1693年（元禄6）には杉山検校の綱吉への働きかけにより、下之坊へ朱印状が下賜されており、杉山検校の支援は下之坊の恭順（院）にとっては大変心強かったであろうことも想像できる。

また杉山検校の晩年、毎月江の島詣が体の負担になることを心配し、常に傍に置いておきたいと考えていた將軍綱吉は、1693年（元禄6）に江島弁財天を分祀し弁財天を和一に与え（黄金の弁財天像だったとも言われている）、江戸の本所一ツ目に土地を下賜している。その土地に弁財天社を建てさせ、杉山検校がお参りできるようにしたと言われている。下賜されたその土地は綱吉が「古跡並扱」としたことから、明治維新後も政府に没収されることはなく、現在、江島杉山神社として残っている。なお綱吉が和一に与えた弁財天像は第二次世界大戦の東京大空襲の戦禍により表面が黒焦げ炭化した状態となってしまっているものの、現在も江島杉山神社に大切に保管されている。

1694年（元禄7）5月18日、和一死去（杉山家系譜によると、実際は5月20日であるが、観音信仰につき遺言にて5月18日としている。公儀への届け出は6月26日）。法名は「前愍検校即明院殿眼叟元清権大僧都」（さきのそうけんぎょうそくみょういんでんがんそうげんせいこんだいそうず）。

杉山検校の死後、弥勒寺に葬られたが、翌年弟子の三嶋安一らによって、江ノ島へ埋葬されている。永く、江ノ島の墓は分骨されたものと考えられていたが、大正12年6月24日の修復工事の際に、江ノ島が本当の墓であることが明らかになっている。江の島弁財天を信仰し、そのご加護により管鍼法を考案するヒントを得た、敬愛するこの江の島の地で潮の香りと潮騒の音を枕に聞きながら、永久の眠りに就いている。



【略年表】

1610年(慶長15)

伊勢国津の生まれ。藤堂和泉守高虎の家臣杉山権右衛門重政の長男。幼名は養慶。杉山検校の出生地については、大和、奥州など諸説があるが、1923年(大正12)6月24日に江ノ島にある墓所の修復工事を行った際、板石に「伊勢津生れ」と記載されていたことから、伊勢津を出生地とする説が有力である。

1670年(寛文10)

60歳で検校となる。

1680年(延宝8)

3月28日、第4代將軍徳川家綱に謁見している(家綱は同年5月8日に死去)。

1682年(天和2)(9月18日か?)

第5代將軍徳川綱吉より命を受け、鍼術再興のため神田小川町に「鍼治講習所(鍼治学問所、鍼治導按稽古所ともいう)」を開設。この鍼治講習所が世界に先駆けて行われた視覚障害者の職業教育機関とされている。(但し綱吉の鍼治振興令を受けて鍼術振興のため開設したと言われているが、幕府の公式な記録は現在確認できず)

1685年(貞享2)

1月8日、綱吉に謁見。綱吉の持病を鍼治療で治し白銀五十枚を賜る。

8月5日、綱吉に召し出され月俸二十口を賜る。

同年、木造座像製作(2019.6月に再発見されたもので、現在修復が終了し奉安殿に安置されている)

1689年(元禄2)

5月5日、小川町猿楽町屋敷拝領。

10月9日、300俵拝領。

1691年(元禄4)

7月18日、城中御勝手向乗物御免。

11月、加増200俵。

1692年(元禄5)

5月9日、関東総検校に任ぜられる。

9月29日、緋衣紋白之袈裟御免。権大僧都に任ぜられる。

同年(月日不明)、下之宮に綱吉の厄年祈願として護摩堂を建立。

1693年(元禄6)

6月18日、綱吉より本所一之橋地面(1892坪余、河岸附792坪余)、江島弁財天像を拝領し弁天社を同地に勧進する。

同年(月日不明)、下之坊に三重塔を建立。綱吉、下之坊に朱印状を与える。(和一が、綱吉に褒美に何か欲しいかと問われて、「目が一つ欲しいうございます」と答え、本所一つ目に宅地を与えられたとの言伝えがある)

1694年(元禄7)

加増300俵(都合800俵となる)。

5月18日、和一死去。弥勒寺に葬られる。(杉

山家系譜によると、実際は5月20日であるが、観音信仰につき遺言にて5月18日としている。公儀への届け出は6月26日)。

法名：前惣検校即明院殿眼叟元清権大僧都(さきのそうけんぎょうそくみょういんでんがんそうげんせいごんだいそうず)

1695年(元禄8)

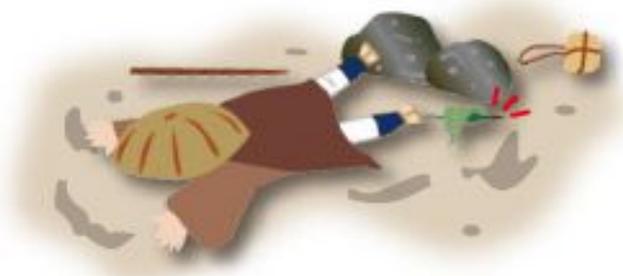
弟子の総検校の三嶋安一らによって、江の島に墓所が建立される。

2. 語り継がれる杉山和一の物語

ここでは、これまで語り継がれてきた杉山和一の物語を紹介する。

幼い時に病により盲目となった和一是、十代の頃、鍼の道を志し、江戸へ出て盲人鍼医山瀬琢一に弟子入りをします。しかし数年間修業を積むも物覚えが悪く、不器用なため一向に上達せず、ついには破門されてしまいました。失意の下、江の島の弁財天に「盲目の私にでも打てる鍼の方法を何卒お授け下さい」と必死に頼って七日七夜の間、断食祈願をしました。しかし何の靈驗も得ることが出来ず、このまま苦なしの身で一生涯の世話になるしかないのなら、いっそのことこの海に身を投げてしまおうかと思ひ詰め、立ち上がって海に向かいはじめました。

歩き出したところで、大きな石(この石を「福石」「臥牛石」と言い、今でもここで何か物を拾うと福が授かると言われていている)に躓いて倒れてしまいます。すると足の裏に何やらチクリと痛いものが刺さり、何かと手に取ってみれば、それは木の葉にグルグルと巻かれた1本の松葉の先が折れもせずに足に刺さっていたのです。(倒れた時に気を失い、その時夢の中に弁財天が現れ、気がついてみると弁財天の姿は消え、体をチクリと刺すものがあり、拾ってみると細い竹の管とその中に入った松葉だったという話もある)。



これこそ弁財天様のご利益であると感じ、良き靈験を賜ったことを喜びつつ、これをヒントに管鍼、即ち管を用いて鍼を刺す「管鍼法」を考案したとされています。その後、京都の入江豊明など当時の実力者の下で研鑽を深め、管鍼術を完成させていきます。



管鍼法

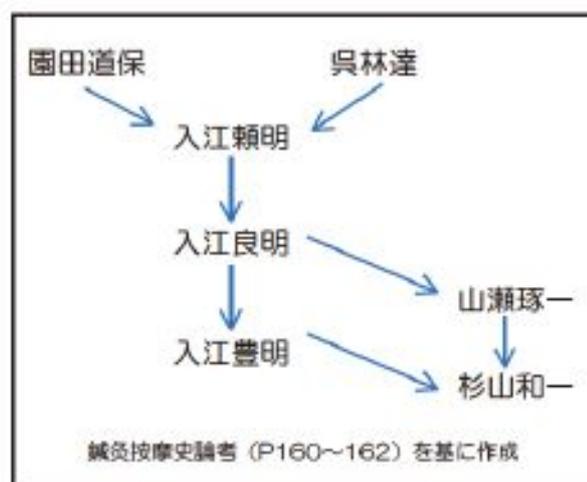
そして再び江戸に戻り治療所を開き、大いに流行ったということです。また、5代將軍徳川綱吉の病気を治した後、褒美に何か欲しいかと問われて、「目が一つ欲しい」と答え、本所一つ目に宅地を与えられたと伝えられています。



検校が踏いたとされる福石（臥牛石）

3. 杉山和一の鍼術のルーツについて

杉山一の師匠は、入江良明に学んだ山瀬琢一と入江豊明で、杉山流のルーツは入江流となる。入江流は豊臣秀吉の医管・園田道保と明人の呉林立に学んだ入江頼明が創始者で、子の良明、孫の豊明と継承されてきたが、その後は途絶えている。



杉山和一の修行時代の相関図

4. 杉山和一と江の島

● 江の島弁財天への寄進

杉山和一は、江の島弁財天への信仰心が篤く、1692年（元禄5）に護摩堂の建立、1693年（元禄6）に三重塔の建立を行っている。三重塔は明治時代の廃仏毀釈により壊されてしまい、現在は見ることはできないが、その様子は「江島道見取絵図」（1800-1806年頃）や葛飾北斎作の浮世絵「富嶽三十六景 相州江ノ島」（1831-34年頃版行）に当時の面影を見ることができる。

また三重塔は、島田筑波が著した「杉山検校和一」によると江ノ島島内に存在していた円可寺に建てられ、その後、杉山検校の基所の上に移動したとの記載があり、現在の江の島市民の家付近に存在していたようである。



葛飾北斎 富嶽三十六景相州江の島

（国立国会図書館デジタルコレクションより転載）

● 江の島道標の寄進

杉山検校は、藤沢宿から江の島までの4kmの間に、江の島までの道順を指し示すために置かれたという48基の「江の島道標」を寄進したと伝えられている。道標の形状は尖頭四角柱で火成岩製。全長は、地上部分120~130cm、地中部分約70cm、幅は22~25cm程度。道標には「一切衆生、至能し満道、二世安楽」の銘が刻まれているが、これらは通常の道標よりも深く文字が掘り込まれており、目の不自由な方も触れてわかり易いようにと、杉山検校の配慮があったと言われている。

この「江の島道標」は、現在藤沢市内に14基確認できている（12基が昭和41年1月17日、藤沢市指定文化財に指定）。またその他、鎌倉市に1基、世田谷区に1基の計16基が現存している。

しかし藤沢市内に現存する14基の江の島道標の中で、湘南モノレール「湘南江ノ島」駅付近の江の島道標の1基だけは形式の違うもので、杉山検校が寄進した江ノ島道標とは別のものとして考えられている。したがって、厳密には藤沢市内には13基（このうち藤沢市指定文化財となるのは11基）、鎌倉市1基、世田谷区1基の計15基が、杉山検校が寄進した江ノ島道標とし

て現存しているということになる。近年、藤沢市郷土歴史課の尽力により江の島道標が整備され、いくつかの道標が江の島道の沿道に移設されている。2021年12月時点の江の島道標15基の様子を記録（表1）として記しておく。

藤沢市	○1. 白旗神社境内 2. 遊行寺内の真徳寺境内 ○3. 藤沢橋 ○4. 遊行通りロータリー ○5. 法照寺境内 ○6. 砥上公園 ○7. 大源太公園 8. 鵜沼海岸の民家 ○9. 片瀬小学校南門脇 ○10. 密蔵寺向い角 ○11. 西行もどり松 ○12. 州鼻通り ○13. 江島神社福石前 (○は藤沢市指定文化財)	13基
鎌倉市	14. 鎌倉市腰越行政センター	1基
世田谷区	15. 幽篁堂(ゆうこうどう)庭園跡地	1基

表1：現在確認できている江の島道標15基

1. 白旗神社境内の江の島道標

(藤沢市藤沢2-4-7；市指定文化財)
移設時期は不明。



2. 遊行寺内の真徳寺の江の島道標

(藤沢市西富1-4-5)
上半部分が残る道標。移設時期は不明。



3. 藤沢橋（大鋸橋）の江の島道標

(藤沢市藤沢1-1；市指定文化財)
平成27年10月藤沢市役所新館脇から移設。



4. 遊行通りロータリーの江の島道標

(藤沢市藤沢40付近；市指定文化財)
平成23年頃に自動車事故で倒され、教育委員会収蔵庫に一時期保管されていた。平成27年6月に新設されている。



5. 法照寺境内の江の島道標

(藤沢市鵜沼神明2-2-24；市指定文化財)
藤沢市鵜沼神明1丁目から移設（時期不明）。
「一切衆生」が「二切衆生」と改刻されている。



6. 砥上（いしがみ）公園の江の島道標

(藤沢市鵜沼石上1-12-9；市指定文化財)
平成27年11月藤沢市役所新館脇から移設。



7. 大源太公園の江の島道標

(藤沢市片瀬360-12；市指定文化財)
平成29年3月片瀬市民センターから移設。



8. 鵜沼海岸の民家邸内の江の島道標

(藤沢市鵜沼海岸7丁目)
藤沢市道鵜沼海岸線より保護移設。



(写真は杉山和一生誕400年記念誌より抜粋)

9. 片瀬小学校南門脇の江の島道標

(藤沢市片瀬2-14-29；市指定文化財)
馬喰橋際東から移設。



10. 密蔵寺向かい角の江の島道標

(藤沢市片瀬3-6-5；市指定文化財)



11. 西行戻り松の江の島道標

(藤沢市片瀬3-10-15；市指定文化財)
平成26年3月新設。「西行もどり松」と裏面に刻む。本蓮寺前の三叉路より移設。



12. 洲鼻通りの江の島道標

(藤沢市片瀬海岸1-9-12；市指定文化財)
平成10年1月に170m南で道路工事により掘り出されたもの。頭部が一部欠落。



13. 江島神社福石前の江の島道標

(藤沢市江の島2-3-8；市指定文化財)
杉山検校が躓いたとされる福石の前に立つ道標。どこからか移設されたものと考えられている。



14. 鎌倉市腰越行政センターの江の島道標

(鎌倉市腰越864)
鎌倉市にある道標。腰越漁協付近から移設。



15. 旧「幽篁堂庭園」跡地の江の島道標

(東京都世田谷区五川4丁目マンション敷地内)
平成20年5月23、元藤沢市職員の品川氏より情報を得た市職員の荒井氏が、同年5月27日に現地確認。江の島道標に間違いないとされたが、移設経緯時期等は不明。



補足として：

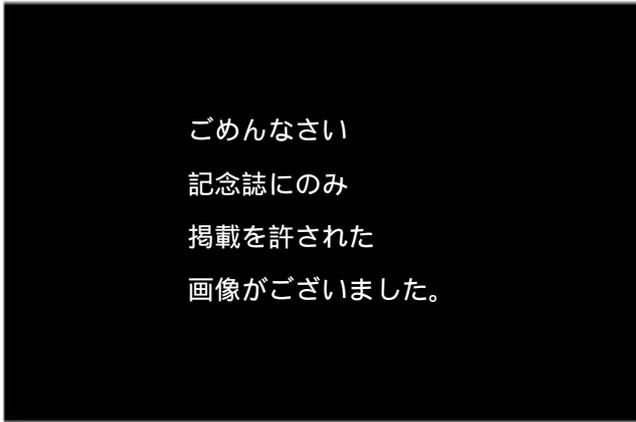
・湘南モノレール「湘南江ノ島」駅付近の江の島道標
(藤沢市片瀬3-15；市指定文化財)

この道標には「従是右江嶋道」「左龍口寺」「願主江戸麹町」との記載がある。杉山検校が麹町で開業していた時期もあり、このことから江の島道標は杉山検校が寄進したものとする意見もあるが、これまで紹介した15基の道標とは唯一形式が異なるものであり、杉山検校が建立したとされる江の島道標とは別のものとされていることを記しておく。

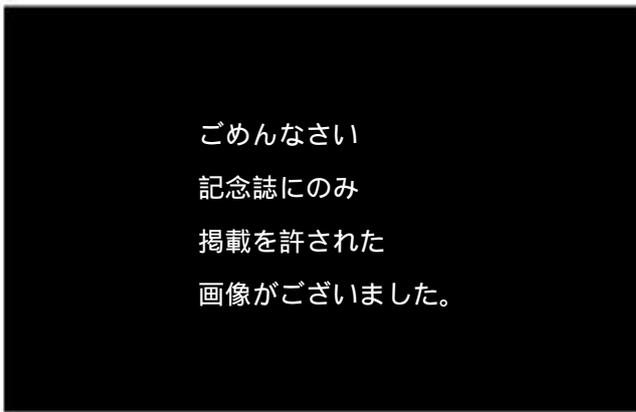


● 浮世絵に見る江戸時代の江の島詣

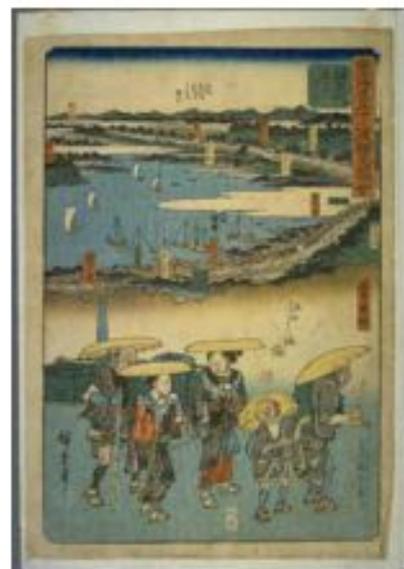
初代歌川広重の浮世絵には、藤沢宿から江の島へ「江の島詣」に向かう人々が登場するが、その中に杖をついている目の不自由な人々が描かれている。杉山検校の故事にあやかって目の不自由な方の参詣が盛んだった当時の様子を知ることができる。



ごめんなさい
記念誌にのみ
掲載を許された
画像がございました。



ごめんなさい
記念誌にのみ
掲載を許された
画像がございました。



歌川広重 東海道五十三次細見図会 神奈川
(国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

●江の島の杉山検校の墓所について

(昭和38年3月25日藤沢市指定文化財指定)

(1) 杉山和一の墓

1694年(元禄7)江戸本所の私宅にて5月20日に死去し、江戸本所の弥勒寺に葬られた(享年85歳)。観音信仰による遺言により命日は5月18日とされている(幕府への届出は6月26日)。永く、江ノ島の墓は分骨されたものと考えられていたが、大正12年6月24日の修復工事の際に、墓石の下に大甕が1つ埋もれていたため調査を行ったところ、首うなだれて坐っている形の、少しも崩れていない人骨が出てきたことから、江ノ島が本当の墓であることが明らかになった。笠塔婆型の墓標には以下のことが記されている。

正面：前総検校即明院殿眼叟元清権大僧都
元禄七甲戌年五月十八日

裏面：施主 杉山安兵衛秀昌
三嶋惣検校安一
元禄八乙亥年五月十八日

側面：追贈正五位
伊勢国津産杉山和一寂定之地
大正十三年二月十一日



杉山和一墓所(江の島西浦霊園)

(2) セツさんの墓

杉山検校の墓所の後方に「即倒院華見妙春靈位元禄四辛未年正月三十日」と刻まれた墓標が存在する。この墓は、検校のお世話をした岐阜出身の「セツ」さんの墓と考えられていて、検校が病気ときに平癒を弁財天に願って、一身を捧げたことから、検校が同じ墓所に墓を設けことを願ったといわれている。杉山家系譜に「無妻、妾宝永二年五月



セツさんの墓

二十一日卒」とあり、検校に正妻はなく、一妾があったことは知られている。しかし、系譜の妾とはその没年を異にすることから系譜とは別人の墓と思われる。

(3) 下之坊 恭順(院)の墓

杉山検校の墓に向かって右側に、複数の墓石があるが、墓所入り口から5つ目の無縫塔型の墓石には「宝永五戌子天江之島地頭 権大僧都法印恭順覚位 五月二十一日下之坊一代」とある。



下之坊 恭順(院)の墓

恭順(院)の生年月日は不明だが、杉山検校が85歳の御年で没してから14年後に亡くなっていることを考えると、杉山検校より年長者であったとは考えにくい。若かりし頃の杉山検校を助けた(支援した)と描かれることが多い恭順(院)だが、没年から推測すると杉山検校よりも若く、下之坊独立のため、検校から様々な支援を受けていた可能性が高い。

(4) 柳沢吉保側室寄進の石燈籠(左右2基)

杉山検校の墓の前面の左右に、柳沢保明の側室が寄進した二基の石燈籠がある。裏面に「寄進石燈墓 二基 元禄十三年庚辰五月十八日川越少将源保明室」とあり、柳沢保明の側室が検校の7回忌に寄進したものである。



柳沢吉保側室寄進の石燈籠

●「杉山祭」について

戦前までは、地元藤沢の同業者組合の有志の手で巳の会、後に杉山講として行われていたが、昭和23年に杉山検校の墓が藤沢市の史跡に指定された事により、昭和24年より杉山検校祭として挙行されるようになった。

現在では、神奈川県鍼灸マッサージ師会の主催により行われるようになり、神奈川県下の業人や検校に縁のある方々が多数集まり、5月18日に近い日曜日を選び、杉山検校の遺徳を敬慕し、墓前にて墓前祭、社殿にて神恩感謝祭の祭典が行われ、岩本楼において懇親会を催し、交流と親睦を深めている。



杉山祭（毎年5月）

5. 杉山和一検校の功績

杉山検校の生前の功績を2点挙げる。

- (1) 管鍼法の大成
- (2) 世界初の視覚障害者職業教育施設である鍼治講習所（学問所）の創設

(1) 管鍼法の大成

従来の打鍼法、撚鍼法よりも扱いやすい「管鍼法」を大成し、鍼治療に革新的な成果を上げたこと。管鍼法は、操作が簡単で、鍼の無痛刺入を容易にし、経穴を正確に捉えられることなどの利点がある。日本独自の刺鍼技術で、現在日本の多くのはり師が用いている。

またドイツの内科医ケンベルの著書「日本誌」により、18世紀にヨーロッパへ伝えられている。

- (2) 世界初の視覚障害者職業教育施設である鍼治講習所（学問所）の創設

世界初の視覚障害者職業教育施設である「鍼治講習所」を創設して視覚障害者に組織だった教育の場を与え、芸能だけではなく鍼灸・あん摩の職業教育という新しい職の分野を開いたこと。視覚障害者の職業として鍼灸・あん摩を定着させることにより、自立の道を開く基礎となった。その後の障害者教育、障害者自立と、社会福祉に与えた影響は大きい。

この後に続く視覚障害者教育施設としては、1784年頃にフランス人のバランタン・アエイが、パリで盲学校を開設している。

6. 江島神社所蔵の杉山和一木造座像について

(1) 木造座像の再発見

令和元年6月16日、江島神社内で長年行方不明だった杉山和一の木造座像が再発見されている。

座像の高さ約42cm、横幅約45cm。頭には布製の燕尾帽を被り、両眼を伏せ、両手は手のひらを上にして腹前で上下に重ね合わせ、法界定印を結んでいる。下肢は瞑想する際の座法の結跏趺坐の姿勢であった。

木造座像の底面には、朱色の筆字にて「勢州津産 杉山氏 貞享二乙丑年五月十八日」と記されていて、1685年5月18日に制作された杉山検校の座像であることが判明した。杉山検校が亡くなる9年前に作らせた自作像であり、その後の各地に存在する座像や自画像のモデルとなった可能性の高い貴重な座像である。

製作から330年以上が経過するこの座像の損傷は激しく、頭部に肌色の塗料と背中部分に赤色の漆、全身の所々に白い塗料が残っているものの、多くは剥げ落ちており木の地肌が黒く露わになっている状態であった。現在、江島神社のご厚意により修復が終了し、奉安殿に御安置され一般公開されている。



再発見された時の木造座像
令和元年6月16日撮影



修復後の木造座像
令和2年9月3日撮影

- (2) 再発見の経緯と木造座像の由来

令和元年6月16日（日）、（一社）藤沢市鍼灸・マッサージ師会理事の清水と西村の2人で、「杉山和一様檢校生誕410年記念像」建立の説明のため江島神社を訪問した際、座像を見せて頂いたことが発見のきっかけ。

この座像の由来に関する唯一の手掛かりが、寛政3（1791）年8月23日に建立された杉山検校木像再修記念碑の「前総検校大僧都法印和一真人伝」という文章中にある。この碑文は江の島下ノ坊境内に建てられていたが、今は存在しない。昭和10年江島神社発行の島田一著「江島神社と杉山検校」に記録が残っており、そこから一部抜粋し引用する。

「今茲四月五日、僧等四人、俱に江島に詣て師の尊敬する所の神廟に宿し、下ノ坊に寓す。爰に師の靈像有り、腰下の刻に云く、貞享二年乙丑五月十八日と、此時真人未だ卒せざるの十年前なり、越えて元禄七年甲戌五月十八日化す、本所弥勒寺兆域に葬る。石あり表して曰く、即明院殿杉山前総検校眼叟元清権大僧都と、奇な

る幾十年前予め死の月日を知って、自ら霊像を為り、これを斯に写しけることや、今茲寛政三年辛亥に逾び、凡そ一百七年真人化してより年数九十八年、恭しく此霊像を拜し、師恩を謝し奉る、是に於て吾儕等之を再修せん事を計り、因て之れを拜迎し、旧に依って之を修し、殆ど一毫も謬らず、今や既に成る、時に秋八月二十三日、霊位玄々、神容在すが如し、謹んで師の大徳に報ずる所以の寸志なり。」

この再修記念碑は、内藤照一、土岐村梅一、土岐村勾当鶴一、土岐村勾当亀一の4名によって建立されたもので、この碑文により杉山検校自作の座像は、検校が没する9年前の1685年（貞享2）5月18日に製作され、その後1791年（寛政3）8月23日に修復されていたことが明らかになった。それ以来二百数十年の時を経て、今日に伝わった木造座像である。

(3) 木造座像はどのように引き継がれてきたか
元々は江の島の下之坊に祭られていたものが、明治維新後の経済的な困窮により在家の手に渡ったようである。その在家とは、江の島の橋を渡ってすぐの左手にある恵比寿屋旅館。その後、恵比寿屋旅館から鎌倉市の山下家に渡っていたことまでは明らかになっている。

昭和41年太田晴之氏の「杉山検校尊像由来記」によると「又、江の島下之坊に奉斎ありし検校像は、明治の頃の金融の為、在家の手に渡り、現在に及ぶ。再三返還方申入るも、難題持ち来り意にまかせず」とある。

太田氏は山下家を訪問し、座像を戻してもらおうよう交渉していたが上手くいかなかったことが記されている。この太田氏の「杉山検校尊像由来記」に記述されていた住所を頼りに、杉山検校遺徳顕彰会の和久田哲司理事長（当時）が平成22年5月3日に山下家を訪れている。そこでの山下氏の話では、「昭和37年頃に杉山検校遺徳顕彰会に上納した」とのことであり、既に山下氏の手元に座像はなく、また杉山検校遺徳顕彰会にも保管されていた記録はなく、山下氏の話が正しければ、座像は昭和37年以降行方不明となったということになる。和久田理事長が訪れた際に、座像の特徴も訊いている。座像特徴は「上納された座像は木造、座禅姿、高さ50cm程度で灰色に黒色をあしらった座布団に安置されていた。当時は布の帽子のようなものをかぶっており、その布を取ると頭部からうなじ、背にかけて赤色の漆塗がなされていた。肩付近は漆が剥げて白く漆の下地が出ていた。厨子は関東大震災のおりに破損してしまい座像本体のみであった」ということで、今回再発見した座像と特徴が一致していた。

山下氏の手元を離れた後、どのような経緯でいつ頃江島神社に戻ったかは、江島神社にもその記録はなく、その経緯は今のところ不明である。

7. 杉山和一 検校が詠まれた和歌

「よばばゆけ 呼ばすば見舞へ 怠らず
折ふしごとに おとづれをせよ」

この歌は江の島で断食修行した折、お世話になった下之坊の恭順院様の病に際して作られたとも伝えられていますが、医療者の心構えを詠まれたものと解釈できます。治療者は、常に患者の心を思い、折あるごとに心を砕いて癒すことが大切であると呼びかけています。

「見てはさぞ 聞きしにまさる 年月の
ころろ積もる 富士の白雪」

長年に渡って「心ぞつもる」と苦勞の末に積み上げて完成した管鍼法は、癒しの治法として「富士の白雪」のように素晴らしいものだ。しっかりと習得して社会に尽くせよ。



【参考文献】

- ・島田筑波：杉山検校和一、史蹟名勝天然記念物保存協会、1929.
- ・島田一郎：江島神社と杉山検校、江島神社、1935.
- ・谷合信：盲人の歴史、明石書店、1996.
- ・長尾栄一：鍼灸按摩史論考、桜雲会、1996.
- ・大浦宏勝：杉山検校遺徳顕彰会所蔵の「杉山真伝流」、日本医学雑誌第50巻第2号2004.
- ・和久田哲司：鍼灸・手技療法史に関する研究、桜雲会点字出版部、2008.
- ・大浦宏勝：江島杉山神社の御神像について、第109回日本医史学会総会一般講演.
- ・和久田哲司：杉山和一に関する調査報告-江ノ島道の道標と各地の遺徳顕彰碑など-、2009.
- ・和久田哲司ほか：杉山和一 生誕400年記念誌、杉山検校遺徳顕彰会、2010.
- ・長尾栄一：史実としての杉山和一、桜雲会点字出版部、2010.
- ・和久田哲司：杉山和一 -目の見えない人たちを救った偉人-、杉山検校遺徳顕彰会、2011.
- ・ヴォルフガング・ミヒェル：「16～18世紀のヨーロッパへ伝わった日本の鍼灸」、全日本鍼灸学会雑誌第61巻第2号、2011.
- ・香取俊光：江戸期の鍼灸・あん摩と視覚障害者～杉山流鍼術の江戸から明治の展開を中心に～、社会鍼灸学研究、2016.
- ・内海恒雄：杉山検校和一と江の島、第18回東洋療法推進大会資料、2019.
- ・加藤康昭：日本盲人社会史研究、未来社、1974.
- ・富士川游：富士川游著作集7、思文閣出版、1980.
- ・姥山薫：惣検校杉山和一神正記、江島杉山神社1993.
- ・永峰光壽：江ノ島所在杉山検校墓所の疑問に就て、史蹟名勝天然記念物第7集、1932.
- ・河越恭平：日本盲人生業史-杉山検校伝-、
- ・谷野遼：新編相模国風土記第4集、1888.
- ・富士川游：杉山和一先生、中外医事新報、中外医事新報社、1894.
- ・浅田宗博：皇国名医伝、1852.
- ・著者不明：三代関、1770.
- ・続国史大系第11巻、経済雑誌社、1902.
- ・常憲院殿御実記11.
- ・杉山先生御伝記、市立米沢図書館所蔵.
- ・太田晴之：杉山検校尊像由来記.
- ・鈴木良明：江島詣-弁財天信仰のかたち-、有隣堂、2019.
- ・是澤恭三：復刊江島弁財天信仰史、江島杉山神社、2019.
- ・児玉幸多：江島道見取絵図、東京国立博物館所蔵東京美術刊行、1977.

8. 「杉山和一総検校生誕410年記念像」のモデルとなった木造座像について

令和2年9月4日（金）江島神社境内に建立された「杉山和一総検校生誕410年記念像」のモデルは、江戸後期の第13代将軍徳川家定の幕府医官であった平塚検校が作成させた右手に金鍼、左手に鍼管を持った木造座像。この座像の由来を「杉山和一生誕400年記念誌」より抜粋し以下に記す。

「この座像は、昭和27年江島杉山神社として社殿が再興された際に、安置されたものである。座像は、高さ20.0cm、幅21.0cm、奥行13.5cmあり、総検校の装束である燕尾帽を冠り、緋色衣に紫袴の御姿で、左手には38mmの銀製円筒型鍼管、右手には43.5mmの金鍼を把持した彩色木座像である。その座像を支える下台座の底に奉納者の名が記載されている。収納する厨子は緋色に彩色されている。

これは幕末、第13代将軍・徳川家定の幕府医官であった平塚検校が作成させたもので、明治時代に平塚検校から弟子の河人俊悦氏に譲られ、再び弟子の加藤国太郎氏、さらに弟子で当時杉山検校遺徳顕彰会副会長であった姥山薫氏に託されたものである。姥山氏の手により昭和27年神社再建に当たり安置されたものである。

この木造座像は、左手に銀製の鍼管と右手に金鍼を持つスタイルで作製されている点に特異な座像で、やはり今まで知られている座像や掛軸に描かれているものとは異なっている。正に「管鍼法の開祖」を表現して、和一没後150年余りの後の後継者らの管鍼法効用への技術開発をシンボル化したの報恩感謝の気持ちを表現したものと想像される。」とある。

現在第5代将軍徳川綱吉公から拝領した地に建つ江島杉山神社（東京都墨田区千歳1-8-2）に御安置されていて、普段は非公開となっている貴重な御神像です。この度の杉山和一総検校生誕410年記念像の建立に際し、大切な御神像をご提供くださった江島杉山神社 田部裕子宮司に心より感謝申し上げます。



モデルとなった座像
（普段は非公開）



徳川綱吉公から拝領した地に建つ江島杉山神社
（江島杉山神社HPより転載）

9. 杉山和一総検校生誕410年記念像の制作過程

(1) 銅像制作の様子



写真1 粘土で原型を作る①



写真2 粘土で原型を作る②



写真3 粘土原型の完成



写真4 粘土原形の最終確認作業
令和2年2月16日
彫像家の喜多敏勝さん(右)と高岡市のアトリエにて撮影



写真5 粘土原形から石膏型を制作



写真6 鋳物を流し込むための砂型を製作



写真7 注湯（溶解した金属を流し込む）



写真8 型から外す



写真9 表面をきれいに修正



写真10 着色工程
微妙な濃淡を出しながら
手作業で塗り重ねる



写真11 完成
年を経るにつれ化学変化が進み
最終的には青銅色に
落ち着いていきます

●銅像制作の打ち合わせの様子（右写真）

記念像制作は富山県高岡市にある「株式会社ナガエ」さんに発注しました。富山県高岡市は歴史的に鑄造技術に優れた会社が多いそうです。これまでに例のない管鉞と鉞を持った御座像のため加工が難しく、太さや長さをどうするかといったことや、銅像設置場所に重機が入らないことから設置方法など色々工夫をして頂きました。銅像は数十年かけて化学変化が進み風合いが出てくるそうです。今後もメンテナンス等々相談に乗ってもらえるので安心です。



(2) 江の島での施工の様子



写真12 設置場所にて事前に清水理事と松原氏（株ナガエ）との打合せ



写真13 施工前のお祓い



写真14 基礎工事の様子



写真15 重機が入らないので人の手で移動



写真16（左） 写真17（上）
台座には江島弁財天の御神霊が納められています



写真18 石段を追加し、玉砂を敷き詰めました



写真19 銅像の背面にも回ることができます



写真20 令和2年9月4日無事に建立されました



写真21 少し遠方からの様子。良い雰囲気です



写真22 (左) 写真23 (右)
令和2年9月4日 緊急事態宣言下のため、少人数で奉告祭を執り行いました

(3) 令和3年5月9日 除幕式



除幕の様子

右から

吉田 勉 (杉山検校遺徳顕彰会理事長)

鈴木恒夫 (藤沢市長)

相原囃彦 (江島神社宮司)

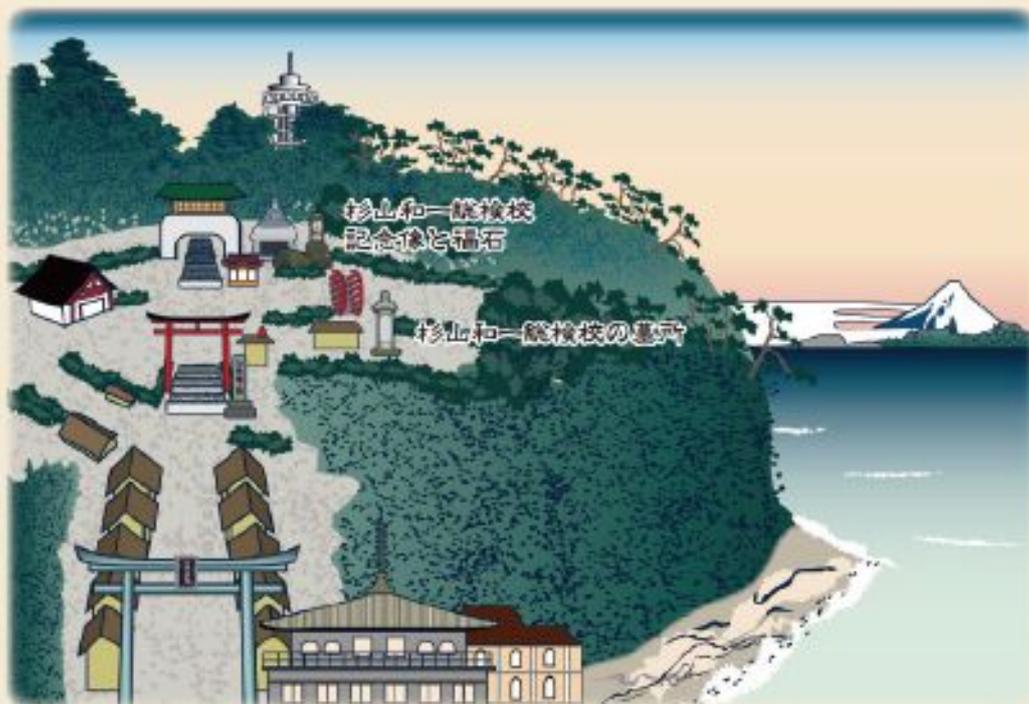
倉塚充夫 (藤沢市鍼灸・マッサージ師会会長)

除幕式の集合写真

緊急事態宣言下のため参加人数を制限し、約50名の方々にご参列頂きました。
一年延期された除幕式が無事に終了しました。



杉山和一総検校江の島参り之図



杉山和一総検校は江の島に眠る
 江島神社参道坂をとばかり上る
 赤き鳥居の先を右に折る
 赤き橋の下をくぐると
 右側に墓所の門あり
 きざはし降りし処杉山和一総検校の墓所あり
 墓所門前の赤き橋を渡りし先
 福石と新たに建立されし杉山和一総検校記念像あり



杉山和一総検校 略年表

西暦	和暦	月日	出来事	江の島関連
1610	慶長15	不明	杉山和一伊勢津に生まれる。幼名：養慶	
			<p>検校になるまでの杉山和一の記録は残っていないため、一般的に言い伝えられている内容を以下に記載しておく。</p> <p>幼少期に病により失明。鍼で身を立てようと江戸の盲人鍼医・山瀬琢一の門弟となるが、鍼術が上達せず破門されてしまう。江の島で、鍼が上達するよう断食修行を行った満願の日、福石(臥牛石)に頭つき、その時に木の葉に包まれた松葉が手に触れる。これぞ舟財天の啓示であると感謝し、日本独自の刺鍼技術である「管鍼法」の発想を得たとされる。その後、京都の入江豊明に師事し研鑽を深め、江戸に戻り開業。名声が大いに上がり門前市をなしたと言われている。</p>	
1640	寛永17			岩本院と上之坊の本末争論
1649	慶安 2	3月21日		岩本院、古儀真言宗大本山仁和寺の直末寺の令旨を得る。
		8月24日		岩本院、幕府の朱印状を得る。
1658	万治 1		山瀬琢一、検校に権成	
1662	寛文 2	不明		上之坊の住職能覚が岩本院の支配を認める。
1665	寛文 5	不明		能覚死去(寛文2年)に際し、岩本院の支配は不当を、上之坊が岩本院を寺社奉行に訴える。
		6月9日		上之坊の訴えは聞き入れられず、敗れる。
1670	寛文10	正月	杉山和一、検校に権成 * 江戸に来てからは麹町で開業していたか?	
1675	延宝3	不明		岩本院の支配から離れた下之坊が、古儀真言宗の大本山仁和寺に直末寺願いを提出。
		12月3日		岩本院が仁和寺に、下之坊が同格の直末を頼み出るの口上書を送る。
1676	延宝4	2月9日		下之坊、全面降伏の札を寺社奉行に提出 また、仁和寺の令旨を受けられず。
1680	延宝8	3月28日	和一、4代将軍徳川家綱に謁見する 「警師杉山検校和一初見し奉る。」	
		5月8日	徳川家綱死去(40歳)。寛永寺に葬られる。	
		8月21日	徳川綱吉第5代将軍となる。	
1682	天和2	9月18日 ?	神田小川町に「鍼治講習所」を開設。 (綱吉より鍼治振興令を受け、鍼術再興のため)	
1685	貞享2	1月8日	和一、綱吉に謁見する。白銀50枚賜る 綱吉の病を鍼治療で治す。	
		5月18日	和一、自身の木造座像を作成する。	
		8月5日	和一、綱吉に謁見する。 「此日警者杉山惣検校和一召出され月俸廿口賜はる。」	
1689	元禄2	5月5日	小河(川)町猿栗町屋敷拝領	
		10月9日	扶持300俵拝領	
1690	元禄3			この頃、江ノ島道標を寄進か?
1691	元禄4	1月30日	セツ死去 (即倒院華見妙春)	
		7月18日	城中御勝手向乗物御免	
		11月	加増200俵	
1692	元禄5	5月9日	和一、関東総検校となる。	和一、綱吉の厄年祈願のため、下之宮に護學堂を建立。
		9月29日	緋衣紋白之袈裟御免	
1693	元禄6	6月18日	綱吉より、弁天像を拝領。本所一之橋地面(1892坪余、河岸附792坪余)拝領。弁天宮御取立古跡並御付。	



西暦	和暦	月日	出来事	江の島関連
1693	元禄6	不明		和一、下之坊に三重塔を建立。綱吉、下之坊に朱印状を与える。
1694	元禄7	不明	加増300俵	
		5月18日	和一、死去。本所の弥勒寺に葬られる。法名は「前惣検校即明院殿眼叟元清権大僧都」。(5月20日死去。観音信仰による遺言で命日は5月18日。江の島の墓の板石5月16日。幕府への届出は6月26日)	
1695	元禄8	不明		弟子の三嶋安一らにより江の島に墓所が建てられる。
1700	元禄13	5月18日		柳沢吉保側室、杉山検校7回忌に江の島の墓所に石灯笼を寄進。
1704	宝永1	8月		岩本院が下之坊に対し、寺社奉行所に訴訟を申し立てる。
1708	宝永5	5月21日		恭順院死去
1709	宝永6	2月19日	第5代将軍徳川綱吉死去	
1784	天明4	不明	ヴァランタン・アユイ、盲人に特別教育を行う(フランス)。	
1791	寛政3	8月23日		内藤照一、土岐村梅一、土岐村勾当鶴一、土岐村勾当亀一らにより、1685年に作られた木造座像の修復。杉山真人略伝の碑建立。
1792	寛政4	不明		旅籠主人ら8人により、福石の石塔の寄進。
1831	天保2			葛飾北斎「富嶽三十六景 相州江ノ島」(1831-1834頃の作品)
1832	天保3			歌川広重「東海道五十三次 藤沢宿」(保永堂版)(1832-1833頃の作品)
1845	弘化2			歌川広重「東海道五十三次細見図絵 神奈川」(1845-1848頃の作品)
1847	弘化4			歌川広重「東海道五十三次 藤沢宿」(隸書版)(1847-1852頃の作品)
1867	慶応3	10月14日	大政奉還	
1871	明治4		当道座廃止により惣録屋敷没収。 (「本所一ツ目弁天社」は「江島神社」の社名に変更)	
1875	明治8			三代目歌川広重「東海名所改正道中記 藤沢江のしまみちの鳥居」
1890	明治23	4月	即明庵を再興し、境内に杉山神社を建立。	
1900	明治33	5月		福石脇の杉山検校碑建立
1923	大正12	6月24日		江の島の墓所修復。この時に江の島の墓所が本物であることが判明。
		9月1日	関東大震災、杉山神社倒壊	
1924	大正13	1月26日	昭和天皇(皇太子)ご成婚	
		2月11日	追贈 正五位賜る	
		5月18日	杉山検校250年記念祭 杉山神社に「贈正五位 杉山検校頌徳碑」建立	
1926	大正15	9月18日	杉山神社再建	
1945	昭和20	3月10日	東京の江島神社、杉山神社、戦火により焼失	
1952	昭和27	9月26日	江島杉山神社竣工。(江島神社と杉山神社を合祀し江島杉山神社となる)	
2016	平成28	4月24日	江島杉山神社境内に、杉山和一記念館落成	
2020	令和2	9月4日	江島神社境内に、杉山和一総検校生誕410年記念像建立	

記念誌編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響で当初の予定より4カ月遅れとはなりましたが、令和2年9月4日江島神社境内に「杉山和一総検校生誕410年記念像」が無事に建立され、また1年延期となりましたが、令和3年5月9日の杉山祭に合わせ、除幕式も無事に執り行うことができました。全国のはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の皆様やあはき関連団体にご協力をお願いし、100以上の個人、団体から最終達成額8,632,000円の温かいお気持ちを賜りました。皆様の温かいご支援、ご協力、誠にありがとうございました。管鍼法の発案や、世界で初めて視覚障害者の職業訓練施設である「鍼灸講習所」を設立し、鍼灸療法を教育するなど先見性のある偉大な功績を、杉山検校ゆかりの地である江の島から多くのの人々に伝えていきたいと思っております。

令和元年6月、手探りの状態で銅像建立に向けてこのプロジェクトは始まりました。このプロジェクトが始まるきっかけとなったのが、藤沢の鍼灸師会の会員の間で取り交わされた何気ない会話でした。「ウィキペディアの杉山和一検校の写真、別人のものだよね」。ご存じの方もいるかもしれませんが、平成31年1月当時、ウィキペディアでは箏曲の山田検校の写真が杉山和一検校として紹介されていたのです。これは何とかしなくてはいけない、という藤沢市鍼灸・マッサージ師会会長の倉塚充夫先生の一言で事が動き始めました。そして色々調べてみると江島杉山神社に杉山検校のレリーフはありますが、全国のどこにも杉山検校の銅像はないのです。これだけの偉大な功績があるにもかかわらず、です。

このプロジェクトを無事に終えることができたのは、人とのつながりなのかなと思います。江島神社様とは、江の島に近い片瀬地区で開業されている藤鍼理事の清水克郎先生が親しくされており、江の島島内に銅像を建立する話をスムーズに進めることができました。令和元年の6月に私達が杉山検校の自作像である木造座像を再発見することができたのも、江島神社様へ

初めて銅像作成の説明に伺ったときになります。行方不明となっていたものが目の前に出てきたのですからとても驚きました。と同時に、銅像建立の話と共にお姿を現された御座像が、私達のような者が出てくることを待たれていたかのようなそんなことも感じました。早速、和久田哲司先生（当時の杉山検校遺徳顕彰会理事長）に連絡したことを覚えています。そして銅像のモデルとなった座像を提供してくださった江島杉山神社様には、快く私たちの思いを聞き入れて下さいました。杉山検校遺徳顕彰会の理事の皆様からもご賛同頂いたことも感謝しております。

江の島は「神奈川県指定史跡名勝」のため「神奈川県指定史跡名勝の現状変更申請」という書類を提出し、県の許可を得なくてはなりませんでした。こちら清水先生に何度も足を運んでいただき許可を得ることができました。清水先生は鍼灸師になる以前は旅行会社でお仕事をされていたようで、企画調整力が非常に高く今回のプロジェクトを牽引して頂きました。寄付金の呼びかけのためのホームページを作って下さった藤鍼理事の村田均先生、全国からの寄付金の集計や配送作業などお手伝いしてくれた藤鍼事務の金湖さん、島田さんありがとうございました。

私事になりますが、私が杉山検校のことを調べ始めたのは今から10年ほど前からで、東海道五十三次藤沢宿の浮世絵に、視覚障害者が江の島詣でをしている姿に気がついたことがきっかけです。東海道五十三次の藤沢宿は私の実家に近く、浮世絵に描かれている遊行寺は40数年前に通っていた幼稚園のあった場所で、高校時代は通学で江島道を通っていました。また私の妻が埼玉県児玉町という塙保己一検校の出身地の生まれであることにも、お互いの出身地が有名な検校に縁がある夫婦ってそうはいないよね、と勝手に縁を感じ、そこから仕事の傍らコツコツと資料を集め始め今日に至っています。

人とのつながりと書きましたが、記念誌作成

にあたり多くの文献を読ませていただきました。吉田弘道先生、姥山薫先生、島田筑波先生、加藤康昭先生、富士川游先生、河越恭平先生、長尾栄一先生、永峰光壽先生、太田晴之先生、金原直太朗先生。先生方が書き残してくれていたおかげで、杉山検校のことを私たちは今日知ることができています。先生方がもしご存命であればお聞きしたいことが沢山あるなあとと思いながら編集をさせて頂きました。心より感謝しております。そして、和久田哲司先生、鹿濱秋信先生、大浦慈観先生、甲賀金夫先生、貴重なお話や資料をご提供いただきありがとうございます。そして約20年前、私が筑波大学理療科教員養成施設の研修生だった頃、恩師の宮本俊和先生の研究室の片付けを手伝っていた時、何気なく手渡

された長尾栄一先生の論文集「鍼灸按摩史論考」が、こんな時に役立つことになるとは、あの時は思いもせませんでした。宮本先生ありがとうございます。

最後に、江島神社、杉山検校遺徳顕彰会、藤沢市鍼灸・マッサージ師会が発起人となり、ノウハウもない状況で手探りで始めたこの企画ですが、協力し無事に記念像を建立できたことを大変嬉しく思います。50年後100年後、江の島で記念像を見た方々にどんな思いで私たちが建てたのか、少しでも伝われば奔走してきた甲斐があるのかなと思います。

(西村博志)

杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会

実行委員長	倉塚 充夫	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	会長
副実行委員長	太田 修二	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	副会長
副実行委員長	西村 博志	杉山検校遺徳顕彰会 (一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事 理事
事務局長	清水 克郎	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事
実行委員	村田 均	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事
	大江田 美鈴	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事
	高橋 寿人	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事
	武内 学	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事
	左近充 誠	(一社) 藤沢市鍼灸・マッサージ師会	理事

杉山和一総検校生誕410年記念誌

発行日 令和4年3月10日

発行者 杉山和一検校生誕410年記念像建立委員会

実行委員長 倉塚充夫（一般社団法人 藤沢市鍼灸・マッサージ師会）

〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢109-6 湘南NDビルディング8階

TEL & FAX. 0466-28-8981

印刷所 有限会社湘南グッド

